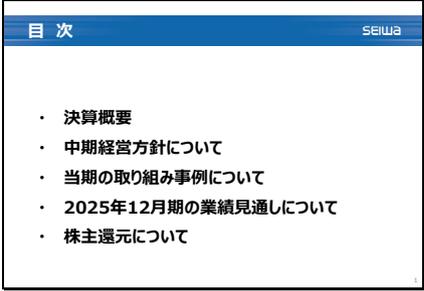


1		<p>こんにちは、星和電機株式会社 代表取締役の増山です。 ご視聴いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>それではただいまから 星和電機株式会社 2024年12月期 の決算説明を 始めさせていただきます。</p>
2		<p>本日は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決算概要 ・中期経営方針について ・当期の取り組み事例について ・2025年12月期の業績見通しについて ・株主還元について <p>の順で説明させていただきます。</p>
3		<p>それでは、2024年12月期の決算概要 について説明いたします。</p>

4

決算サマリー		SEIWA			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高 前年同期より6.1%増加 増大：産業用情報機器、配管保護機材、道路情報表示システム、道路・トンネル用情報機器 減少：産業用配管保護機材、電機設備用部品 ■ 営業利益 前年同期より70.2%増加 増大：産業用情報機器、道路情報表示システム、道路・トンネル用情報機器 減少：電機設備用部品 					
		2023年12月期	2024年12月期	増減	増減率(%)
売上高		23,760	25,215	1,454	6.1
売上総利益		5,224	6,167	942	18.0
販管費		4,183	4,395	211	5.1
営業利益		1,041	1,772	730	70.2
経常利益		1,159	1,921	762	65.8
親会社株主に帰属する当期純利益		793	1,350	556	70.1
自己資本当期末純利益率(%)		5.3	8.2	2.9	-
経常利益率(%)		4.1	6.6	2.5	-
売上高営業利益率(%)		4.4	7.0	2.6	-
(営業利益率)		47%	49%		

2024年12月期の経営成績は、

前期に比べ増収増益となりました。

売上高は

252億1千5百万円で、前期に比べ

6.1%の増加となりました。

営業利益は、17億7千2百万円で

前期に比べ70.2%の増加、

経常利益は19億2千1百万円で

65.8%の増加、

親会社株主に帰属する当期純利益は、

13億5千万円で

70.1%の増加となりました。

5

セグメント別の状況 ①情報機器事業		SEIWA			
<ul style="list-style-type: none"> ■ (売上高) 高収益部門は増加 一般設備向けは減少 ■ (利益) 収益性の改善による増益 ■ (受注) 期中受注額は高水準維持、一般設備向けにも減少 前期に引き続き受注残高は高水準 					
		2023年12月期	2024年12月期	増減	増減率(%)
売上高		9,128	9,590	462	5.1
セグメント利益		957	1,365	408	42.7
受注高		13,276	10,478	△2,797	△21.1
受注残高		11,650	12,539	888	7.6

セグメント別の状況について

ご説明いたします。

情報機器事業全体の売上高は

95億9千万円で、前期より

5.1%の増加となりました。

セグメント利益は

13億6千5百万円で

収益性の改善により増益となりました。

期末の受注高は

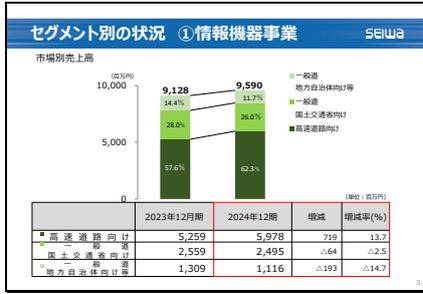
21.1%の減少となりました。

受注残高は

前期と比べ7.6%の増加で

前期に引き続いて高水準となりました。

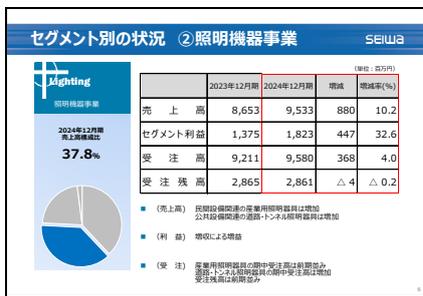
6



売上高の内訳ですが、
主力製品であります
道路情報表示システムにおきまして、
高速道路向けは、
前期に比べ増加、一般道路向けは減少いたしました。

高速道路向けの売上高は
59億7千8百万円で、
前期に比べ13.7%の増加、
一般道路向けの売上高は
36億1千2百万円で、
6.7%減少しました。

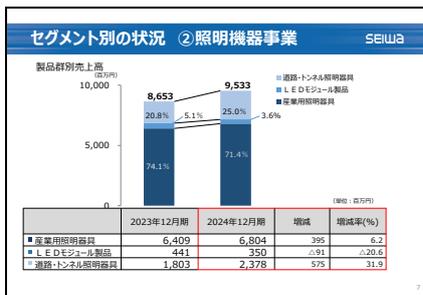
7



つぎに照明機器事業です。
事業全体の売上高は
95億3千3百万円で、
前期より10.2%の増加となり、
セグメント利益は18億2千3百万円となりました。

受注高は
公共設備関連の道路・トンネル照明器具の増加により
4.0%増加しました。
受注残高は、前期並みとなりました。

8

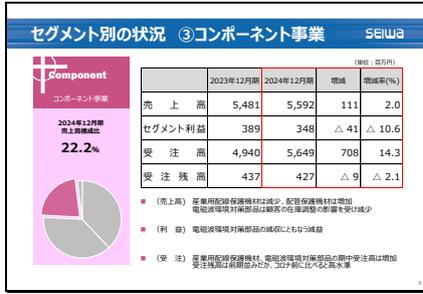


売上高の内訳です。
民間設備関連の
産業用照明器具は、前期に比べ増加しました。
公共設備関連におきましても
道路・トンネル照明器具が増加しました。

産業用照明器具関連の売上高は
68億*4百万円で、
前期に比べ6.2%増加しました。

道路・トンネル照明器具の売上高は
23億7千8百万円で、
前期に比べ31.9%増加しました。

9



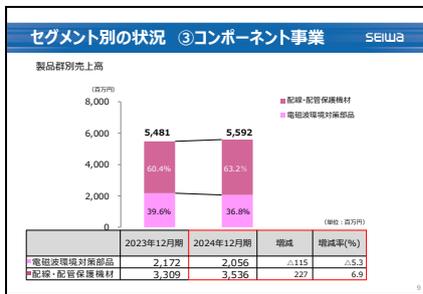
次に、コンポーネント事業です。
事業全体の売上高は
55億9千2百万円で、
前期より2%増加となりました。

セグメント利益は
3億4千8百万円で、
電磁波環境対策部品の減収の影響を受け、
減益となりました。

受注高は
産業用配線保護機材、電磁波環境対策部品の増加により
14.3%増加しました。

受注残高は、
2.1%の減少となりました。
受注残高はコロナによる長納期化の影響は改善され、
減少の傾向ですが、コロナ前に比べるといまだ高水準です。

10



売上高の内訳です。
配電盤や機械装置に用いる
産業用配線保護機材は
前期に比べ減少となりましたが、
エアコン用の配管保護機材は
前期に比べ増加となりました。
電磁波環境対策部品は、
顧客の在庫調整の影響を受け、
減少となりました。

配線・配管保護機材の売上高は
35億3千6百万円で、
前期と比べて6.9%増加しました。

電磁波環境対策部品の売上高は
20億5千6百万円で
前期と比べて5.3%減少しました。

BSの状況		Seiwa	
	2023年12月期 期末	2024年12月期 期末	増減
資産	27,939	30,378	2,439
流動資産	19,190	20,914	1,723
現金及び預金、受取手形、売掛金及び契約資産	12,820	14,831	1,205
固定資産	8,748	9,463	715
負債	12,292	13,107	815
流動負債	10,551	10,370	△ 211
固定負債	1,740	2,737	1,027
長期借入金	692	1,538	845
純資産	15,647	17,270	1,623
自己資本比率	55.9%	56.8%	0.9PT
総資産	27,939	30,378	2,439
<自己資本比率>	55.9%	56.8%	0.9PT

主な増減理由

- (資産) 増加：現金及び預金、受取手形、売掛金及び契約資産の増加
- (負債) 増加：長期借入金の増加
- (純資産) 増加：利益剰余金の増加

それでは、
連結貸借対照表について、
概要を説明いたします。

2024年12月期、期末の
資産は、303億7千8百万円で
前期末に比べ24億3千9百万円増加しました。

負債は、131億*7百万円で
8億1千5百万円増加しました。

純資産は利益剰余金の増加により、
16億2千3百万円増加し、
172億7千万円となりました。

主な増減要因は次のとおりです。

流動資産は

現金及び預金、受取手形、売掛金及び契約資産などの増加により
209億1千4百万円となりました。

固定資産は

投資有価証券などの増加により、
94億6千3百万円となりました。

流動負債は

短期借入金などの減少により
103億7千万円となりました。

固定負債は

長期借入金などの増加により
27億3千7百万円となりました。

12

CFの状況		SEIWA	
■ 営業キャッシュ・フロー	税金等調整前当期純利益の増加により9億81百万円の収入		
■ 投資キャッシュ・フロー	有形固定資産の取得により9億3百万円の支出		
■ 財務キャッシュ・フロー	長期借入れによる収入により9億8百万円の収入		
	(単位：百万円)		
	2023年12月期	2024年12月期	増減
営業キャッシュ・フロー	529	981	451
税金等調整前当期純利益	1,164	1,276	812
投資キャッシュ・フロー	△ 364	△ 203	161
有形固定資産の取得による支出	△ 223	△ 301	△ 282
財務キャッシュ・フロー	△ 989	98	1,088
長期借入れによる収入	△ 769	1,450	1,450
現金及び現金同等物 期中増減額	△ 769	1,022	1,791
現金及び現金同等物 期末残高	2,587	3,609	1,022

連結キャッシュフローについて、
概要を説明いたします。

営業活動の結果、
9億8千1百万円の収入となりました。
主な要因は税金等調整前当期純利益が増加したことです。

投資活動の結果、
2億*3百万円の支出となりました。
主な要因は、金型など有形固定資産の取得です。

財務活動の結果、
9千8百万円の収入となりました。
主な要因は、長期借入れによる収入です。

13



続きまして
中期経営方針について説明いたします。

14

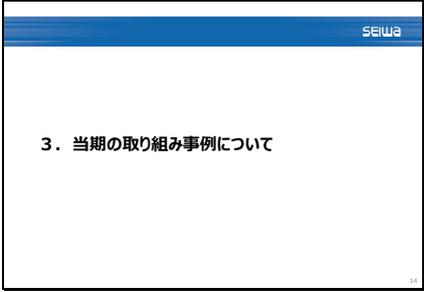


中期経営方針は
「持続可能な組織を実現するために
Seiwa Wayの思想に基づき責任ある行動をする」です。

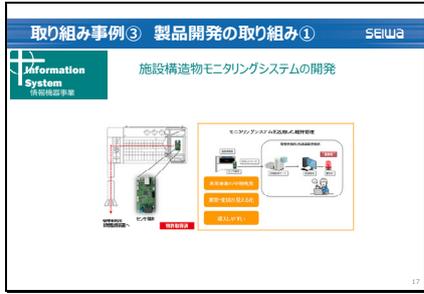
Seiwa Wayとは、2015年に導入した
「経営理念」、「私たちの働く目的」を実現するために、
星和電機の社員としてどのような価値観を共有し、
どのような仕事の仕方をすべきかをあらわした思想です。

当社は、中期経営戦略のもと、
「持続可能な組織の実現」に向け、
モノづくり、市場創出、技術の観点で取り組んでおります。

また、「SEIWA SDGs」を軸としてさまざまな社会課題に取り組み、
「持続可能な社会の実現」にも努めてまいります。
ひきつづき内部統制およびコーポレートガバナンスの強化、
コンプライアンスの徹底に全社をあげて取り組んでまいります。

<p>15</p>		<p>それでは、当期の各事業の取り組み事例について説明いたします。</p>
<p>16</p>		<p>情報機器事業、照明機器事業の事例を説明いたします。</p> <p>このたび、ネパールにトンネル照明設備とトンネル非常警報設備を納入しました。本件は、首都カトマンズとインドを結ぶ幹線道路にあるナグドゥンガ峠に、ネパール初のトンネルを建設し、同地域の社会・経済発展の促進に寄与する政府開発援助のプロジェクトです。</p> <p>当社は、トンネル照明器具約900台とトンネル警報表示板8面などを納入しました。</p> <p>トンネル設備の海外納入は初めてであり、慣れない海外案件に苦戦しましたが、製販のチームワークを活かし、納入を完了することができました。今後も国内外を問わず星和の技術力で安心・安全なインフラ整備に貢献してまいります。</p>
<p>17</p>		<p>次に、コンポーネント事業の取り組みについて報告いたします。</p> <p>今回開発・発売したSGX01は、植物成分から抽出した脱石油材料で、カーボンナノチューブを高度に分散する環境配慮型の高分子分散剤です。当製品は、分散時の粘度上昇を抑制し、高濃度領域の分散が可能で、分散状態も長期的に安定します。</p> <p>また成分である多糖類は、廃棄される植物などを原料とし、環境に配慮した技術で抽出しており、安全性が高く、安心して使用できる点が様々な分野、業界で活用・展開ができます。</p>

18



次に

情報機器事業の施設構造物モニタリングシステムについて報告いたします。

高速道路インフラの老朽化が深刻化しており、道路付帯設備である道路情報表示システムの支柱も経年劣化や振動、自然災害の影響で損傷し、落下や倒壊の懸念があります。

老朽化した設備を効率的に保全・点検し、維持・修繕することは重要な課題ですが、維持管理技術者や予算の確保が課題となっています。

当社は、道路付帯設備の老朽化対策として、株式会社ネクスコ東日本エンジニアリングや東京理科大学との共同研究により、道路情報板支柱の異常を遠隔で自動検知するモニタリングシステムを開発いたしました。このシステムは支柱の揺れを常時監視し、支柱の亀裂や取付ナットのゆるみによる倒壊の危険を早期に発見いたします。

遠隔監視による定量評価が可能のため、維持管理業務の効率化と高度化、目視点検の属人化解消に貢献いたします。

19



次に、Webリセットブレーカについて報告いたします。

この製品は監視場所のパソコン端末から、道路情報板などの路上設備の電源を遠隔でリセットできる機能を持ち、現場に行かずに機器を素早く復旧することができます。平常時の監視もパソコン端末で完結するので、インフラメンテナンスの省力化・効率化に貢献いたします。

この製品の主な特長ですが

- ・ I P ネットワークに直結できる
 - ・ 不要動作時に自動で再起動
 - ・ 遠隔での電源リセット操作
 - ・ ブラウザ画面で履歴が確認できる
- などがあります。

20



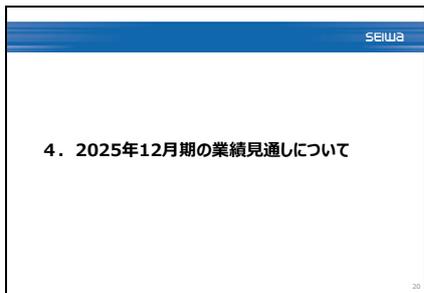
次に、SEIWA SDGsの取り組み事例として、
地域・社会貢献活動について報告いたします。

当社は、環境美化と地域社会との調和に関する活動の一環として、
2012年に国土交通省のボランティア・サポート・プログラム協定を結び、
城陽エコクリーンという団体名で、
年4回、従業員による周辺の国道清掃活動を行っております。

このたび、公益社団法人 日本道路協会より
令和6年度 道路功労者表彰を受けました。
この賞は国道の美化・清掃活動に取り組んでいるボランティア団体に対し
て、授与されます。

道路・トンネルで安心・安全なインフラ整備に携わる企業として、
これからも道路美化活動と地域貢献を継続してまいります。

21



それでは、
2025年12月期の業績見通しについて
説明いたします。

22

	2024年12月期	2025年12月期 予想	増減	増減率(%)
売上高	25,215	26,000	784	3.1
営業利益	9,350	9,200	△ 150	△ 1.6
経常利益	9,333	10,200	866	9.3
その他の	9,350	9,200	△ 150	△ 1.6
営業利益	1,772	1,800	27	1.6
経常利益	1,921	1,850	△ 71	△ 3.7
親会社株主に帰属する当期純利益	1,350	1,245	△ 105	△ 7.8

2025年12月期の業績見通しですが、
公共設備関連では、
防災・減災、国土強靱化の加速化対策が
5か年計画の最終年度でもあり、
インフラ整備などの公共事業の継続、
政府のカーボンニュートラル施策を背景とした
照明器具のLED化促進などが予想されます。
民間設備関連では
2027年蛍光灯販売終了を背景に
国内の設備投資におきまして
LED照明器具の需要が堅調に推移すると
見込んでおります。
売上高は、260億円を予想しております。
利益に関しましては、
営業利益 18億円、
経常利益 18億5千万円を予想しております。
また親会社株主に帰属する当期純利益は、
12億4千5百万円を予想しております。

2025年12月期業績見通し		SEIWA
公共設備関連	防災・防災、国土強靱化によりインフラ整備などの公共事業の継続、政府のカーボンニュートラル施策を背景とした照明器具のLED化促進を予想	
民間設備関連	2027年蛍光灯販売終了を背景に、国内の設備投資において、LED照明器具の需要が堅調に推移を企及予想	
事業別の見通しと方針		
Information System 情報システム事業	見通し：国土強靱化やインフラ整備のための公共事業の継続 方針：期初の受注残高に加えて更なる受注の確保 製販連携による確実な生産と品質の確保	
Lighting 照明機器事業	●公共設備関連 見通し：政府のカーボンニュートラル施策を背景に照明器具のLED化が促進 方針：LEDトンネル照明器具を中心とした受注の確保 ●民間設備関連 見通し：2027年蛍光灯販売終了を背景にLED照明器具の需要が堅調に推移 方針：LED照明器具の拡販と製品ラインアップの拡大で市場のシェアを拡大	
Component コンポーネント事業	見通し：国内の設備投資が堅調に推移 方針：新製品開発と電波暗室を活用したソリューション営業活動による市場の拡大および新市場の開拓	

続きまして

各事業における見通しと

方針について説明いたします。

情報機器事業では

売上高9.2億円を予想しております。

国土強靱化やインフラ整備のための

公共事業の継続が予想されます。

期初の受注残高が高く、

製販連携による確実で

効率的な生産と品質の確保に取り組み、

更なる受注に努めてまいります。

照明機器事業では

売上高10.2億円を予想しております。

公共設備関連では、

政府のカーボンニュートラル施策を背景に

照明器具のLED化が促進することが

見込まれます。

LEDトンネル照明器具を中心とした

受注の確保に努めてまいります。

民間設備関連では、

2027年蛍光灯販売終了を背景に

国内の設備投資におきまして

LED照明器具の需要が

堅調に推移すると

見込んでおります。

LED照明器具の拡販と製品ラインアップの

拡充で市場のシェア拡大に努めてまいります。

コンポーネント事業では

売上高は6.2億円を予想しております。

新製品開発と電波暗室を活用した

ソリューション営業活動による

市場の拡大および新市場の開拓に

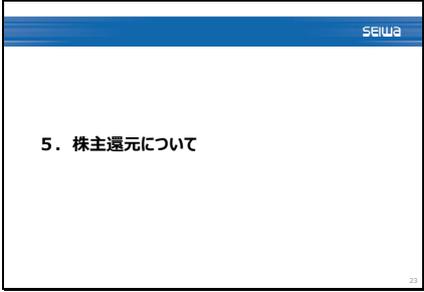
努めてまいります。

利益面につきましては、

引き続き全事業におきまして

生産性の向上による

収益性の改善に努めてまいります。

<p>24</p>		<p>次に、 株主還元について 説明いたします。</p>														
<p>25</p>	 <table border="1" data-bbox="236 613 587 658"> <thead> <tr> <th>決算年月</th> <th>20/12</th> <th>21/12</th> <th>22/12</th> <th>23/12</th> <th>24/12</th> <th>25/12(予)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1株当たり配当額(円) (うち1株当たり中間配当額)</td> <td>10 (-)</td> <td>15 (-)</td> <td>15 (-)</td> <td>18 (-)</td> <td>18 (-)</td> <td>18 (-)</td> </tr> </tbody> </table>	決算年月	20/12	21/12	22/12	23/12	24/12	25/12(予)	1株当たり配当額(円) (うち1株当たり中間配当額)	10 (-)	15 (-)	15 (-)	18 (-)	18 (-)	18 (-)	<p>当社の配当方針は、 株主に対する安定配当の維持と、 将来の事業展開のための 内部留保の充実を考慮して、 毎事業年度における業績と財務状況等を 総合的に勘案することとしております。</p> <p>2024年12月期の配当は、 この方針にもとづき、 1株当たり18円となります。</p> <p>2025年12月期の配当は、 同じく1株18円を予定しております。</p>
決算年月	20/12	21/12	22/12	23/12	24/12	25/12(予)										
1株当たり配当額(円) (うち1株当たり中間配当額)	10 (-)	15 (-)	15 (-)	18 (-)	18 (-)	18 (-)										
<p>26</p>		<p>最後に、創業80周年についてお知らせいたします。</p> <p>星和電機株式会社は、2025年10月に創業80周年を迎えます。 80年間、事業を継続してきた誇りを胸に、 私たちを支え、応援していただいたすべての皆様に、 厚くお礼を申し上げます。</p> <p>当社は、 「人材の開発と相互信頼に努め、新技術に挑戦して、社会に貢献する。」と いう 経営理念のもと社会課題の解決を通じ、 公共と産業の発展とともに事業を展開してまいりました。</p> <p>会社にとって最も重要なことは持続性であり、 そこで働く人々や社会に対して 永続的に貢献し続けることを使命としています。 20年後の100周年、さらに300年400年続く 企業を目指し、経営理念のもと、 絶え間なく変化を繰り返しながら、 挑戦を続けてまいります。</p>														

問合せ先・免責事項	SEIWA
<h2>星和電機株式会社</h2>	
TEL: 0774-55-8181 FAX: 0774-58-2034 E-mail: info@seiwa.co.jp https://www.seiwa.co.jp	
<small>当資料には、2024年3月7日現在の資料に関する前提・注記に基づき開示されています。世界経済・為替変動等に起因するリスクや不確定要素により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。</small>	
<small>◆当資料の計算方法について◆ 数値は百万円単位で表示し、百万円未満の端数%（以下「セント」）を省略する場合は、小数点1位未満を四捨五入増減算および増減率等は、四捨五入して算出しております。</small>	

以上を持ちまして、

星和電機株式会社

2024年12月期 決算説明を

終了いたします。

ご視聴いただき、まことにありがとうございました。